

2020年6月27日(土)コロナの感染防止のため、各自、自宅等で受講する形で Web「これからの福祉 高齢障がい者の生活支援について」講座が開かれました。参加者は約12名。

受講者の感想は下記の通り。

(福祉現場の職員 Uさん)

- ① 先生の話の聞いていると幸せな気分になります。自分がどこから何をすればいいのか、考えます。社会がもっと、障がいが個性になればと思います。
- ② 色々な障がいのバリアを除く、防災、避難、感染予防が検討必要だと考えさせられました。私の町内会に重度身体障がい児者さんのデイケアがあります。色々対応策は考えておられますが、緊急性のある時など大変だと思います。障がいのある方も、生活圏内で指導してもらえる機会に参加できるようにしっかり知る権利がありますね。難しいことがいっぱいです。どうぞ今後とも宜しくお願いします。

(聴覚障害当事者)

権利擁護や障害者、高齢者の自己決定の大切さを改めて考えさせられました。当事者に関するボランティアをしていますが、「全ての人がともに生きる」という意識を忘れてるように気が付きました。これからも活動だけではなく学び続けたい。

(文字支援者たち)文字支援について

- ① 事前に接続確認の時間を設けていただいたので、スムーズにスタートできた。
- ② 利用者が発言の際にホワイトボードに手書きしたのは、とても良かったと思う。他の参加者や要約筆記者からも確認しやすかった(チャットだけでは、入力に時間がかかり、見落とすこともあるので)
- ③ 文字表示方法など、対面で調整すれば、もう少し使いやすくなりそう。
- ④ 利用者が、captiOnline につながったとき、あるいはつながらないとき、こちらにどう連絡するか、さらに工夫が必要と感じた。
- ⑤ 「障がい福祉を勉強する会」の依頼がなければ、遠隔情報保障に取り組むこともなかったかもしれません。「新しい活動」との出会いのきっかけを作っていたいただいた「障がい福祉を勉強する会」に改めてお礼を申し上げます。